

2022年1月1日
社長 岩崎美樹

2022年 年頭のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。
新年は良い天気にも恵まれ、皆様に於かれましては健やかな新年を迎えられたことと思います。

2021年は新型コロナに翻弄された年でした。年末から「オミクロン株」が猛威を振るっていますが、2022年は製薬各社が治療薬を投入することが見込まれ、私達の生活にも前向きな変化が訪れることを期待したいと思います。

当社グループが所属する電子部品業界の2021年は半導体不足に加え東南アジアで発生したロックダウンにより多くの部品供給に支障をきたし自動車をはじめとする完成品の生産に影響をきたし、中国の電力不足による影響もありましたがJEITA発表(2021年12月)では前半の回復により世界生産額約27兆円、うち日系企業の生産は34%の約9.4兆円を見込んでいます。2022年は世界的なカーボンニュートラルの流れを背景に自動車の電動化の推進、再生エネルギーなどの環境製品向けに期待し生産額約29兆円、うち日系企業生産は昨年比約3%増の9.7兆円を見込んでいます。

このような中当社グループは市場の回復により2021年前半はフル生産が続き上期は計画を大きく上回る収益を上げる事が出来ました。下期に入り半導体不足による車載メーカーの減産影響も出てきていますが2021年は2020年と比較すると収益面で大きく成長した年でありました。

本年はコロナ鎮静化、半導体問題の解消などで市況は上向くと想定されますが、一方で地政学リスクの懸念やエネルギーコスト、原材料コストの高騰影響もあり先の見通しが難しい環境が継続すると思います。そのような中、当社グループでは可変抵抗器は新規高付加価値製品の生産出荷がスタート。またトリマポテンショメーターは各種電源用、自動車向けコーナーセンサーで引き続き需要拡大が見込まれますので積極的な設備投資を行い生産能力増強しお客様の要望にお答えしたいと思います。安全運転支援用フィルムヒーターは設備改善による生産能力の向上、生産性向上、品質向上への取り組みを強化いたします。角度センサーは引き続き用途拡大で需要の拡大を見込みます。力覚センサーは3月にビッグサイトで行われる国際ロボット展に出展し生産及び販売活動が本格化致します。

本年、東京コスモス電機は創立65周年を迎えます。また今年4月には東証の再編が行われ当社はスタンダード市場を予定しております。この再編では会社として企業価値を上げて株価を高い水準で維持・向上が求められています。創立65周年、東証の再編の年に際し、あらためて従業員一同気を引き締め頑張る所存ですので引続き株主の皆様のご支援をお願い申し上げます

最後になりますが、本年の皆様及びご家族様のご健勝とご活躍を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。